私の自転車　リカンベントへの想い

2002 年 12 月にフォールディングタイプの国産セミリカンベント車タルタルーガを購入。通勤などにも利用して十分に満足していましたが、いつしか本格的なリカンベント車に乗ってみたいなあと、夢追う「少年」のように恋焦がれるようになりました。

横にあるのは 1999 年 11 月に購入した同じくフォールディングタイプの英国製ストライダ２
写真１

写真１

「少年」の心をつかんで離さないリカンベントをオランダから待つこと久し３ヶ月、、、、

そして 2004 年 2 月の極寒の頃、ついに夢が実現。
「乙女」のような胸の高鳴りに納車を待ちきれず、輸入販売店先での組み立て作業の様子を、今か今かとじっとそばで見守っておりました。写真２

購入価格は５年たった今でも家族には・ヒ・ミ・ツ・・・！

写真２

じつは半年前の試乗では最初うまく乗りこなせず、初動、停止時のバランスとりに冷や汗をかいたものです。引き渡されたらすぐに乗りたいのは山々ですが、果たして無事に家まで乗って帰れるのか、忘れていたあの恐怖感があとから甦ってきました。無灯光なので明るいうちに帰らなければならないプレッシャーとも戦いながら、寒い時期なのに大汗、、、、

リカンベント王国のオランダはチャレンジ社製の「ミストラル（地中海のそよ風）」ABB（Above Seat Steering）仕様。写真３

全長 180cm、ハンドル幅は 45cm、シート高は 50cm　アルミ製重さ 14kg、タイヤは前後輪 20inch。
前後輪 MAGURA 製油圧ブレーキ、シフトは左側がフロント２段で SRAM 製ダイヤル式、右側がリア９段でシマノ製レバー式、Shock Works 製リアサスペンション。オプションとして、スタンド、バックミラーは必需品。

写真３

写真４　油圧ブレーキレバーとシフトレバー

写真５　フロント油圧ブレーキとチェーンガイドチューブ

シフトレバーは左右のメーカーが違うため販売店泣かせとか、、、私は普通のことと思っていましたが、、、！？

写真６　シマノ製フロントディレイラーと TIME 製ペダル

ロー側におとしたことは一度もない！　もはやお飾り

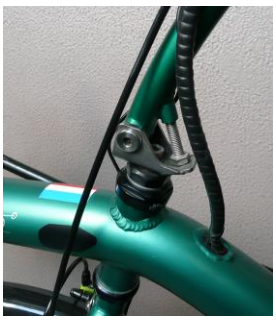
写真７　シマノ製リアディレイラーと油圧ブレーキ

ガードがガキっぽいと侮るなかれ！　アルミ製では必需品

写真８　輪行時の移動用ホイールは手作り加工品

写真９　輪行時のスタイルは立てて上から袋をかぶせる

写真 10　調整用ナット



自重 14kg はこのタイプでは軽い方だが、いろんなアクセサリを付けているのでもはや重さは関係なし。ハンドルステムのナットネジ調整でシートに着くくらい折れるが、かさ張る点が難点。平地では立てたまま前後に押し進むが、駅舎、ホームにエレベータ、エスカレータの有無を事前に確認しないと大変なことに。せっかく確認しても点検中で、ガビーン！！

写真 11　トピーク製サイクルメータと USB ライト

ミラーは当初右側だけだったが歩行者対策に左側にも必要

写真 12　ハンドルステムは角度調整も可で前後に折れる

ハンドルが起きないと乗降時に無理な体勢となり倒れる

写真 13　Shock Works 製リアサスペンション

食べた物を吐かずに済むリアサスはリカンベントの必需品

写真 14　洗濯可能なウレタンスポンジシートを外すと

これだけ肉抜き、通気がよくても背中の汗は半端じゃない

リカンベントとは寝て漕ぐ乗り物。地中海のそよ風イメージ通りの乗り心地で、空を見上げながら腰と背中全体でペダルを廻す感じ。一般公道を走る前には夜な夜なストップアンドゴーを繰り返した約１ヶ月の猛稽古もいい想い出。お尻よりペダル位置が高いためバランス取りが命。苦節 5 年、今ではご近所をママチャリ感覚で乗り回しているものの、乗車姿勢は乗用車のドライバー目線より低いため相手からの視認性は最悪と考えるべし。たとえライトを点灯していても暗い夜道での走行は命がけ。昼間でさえこちらが止まっていても気づかずに人がぶつかってくることもあるなど、とにかく街中では相手に自らの存在をアピールするよう、これでもかこれでもかとできる限り目立つ超ド派手な色彩のウエアがベスト。あとは運と四輪ドライバーの方々の腕を信じるのみ。だからシルバードライバーの多い田舎ではちと怖いかも、、、、、これホント！

夢の実現から早 5 年経ち「少年」の心はさらにまた新たな「トライク＊」へと大きく育ち膨らみ続けています。
＊　トライク：低車高３輪自転車

昭和 54 年経営卒　井出　義實
２００９年５月５日